

令和8年度シラバス（国語）

学番 28 新潟県立村上高等学校

教科(科目)	国語（現代の国語）	単位数	2単位	学年(コース)	1 学年
使用教科書	第一学習社『高等学校 現代の国語』				
副教材等	漢 字：第一学習社『新版意味から学ぶ頻出漢字 3000』 問 題 集：尚文出版『基本の現代文 大学入学共通テスト対策 新装二版』 ラーンズ『進研WINSTEP現代文1 新課程版』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	①未知のものに勇気をもって向き合い、謙虚に、かつ、意欲的に学ぶ生徒の育成を行います。 ②他者への配慮と心のこもった挨拶や振る舞い方を身に付け、思いやりをもって他者に接することにより、真に信頼される生徒を育成します。 ③学校生活の様々な機会を通じて心と体を鍛え、自分の将来の目標に向け、覚悟をもって努力する生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	①生徒一人ひとりの学力を高めるために、基礎的な学習の繰り返しにより知識の定着を図る指導を行います。 ②確かな学力に基づく問題解決力と判断力を身に付けさせるために、教科横断的な探究学習を行います。 ③専門分野に対する深い理解をもった職員が、質の高い授業を行い、学ぶことの面白さと喜びを伝えながら、生徒の教養を高めます。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
--

3 指導の重点

生徒の多くが大学・短大等への進学を希望していることから、入試に結びつく基礎学力の定着を図りつつ、次のことを重点とする。 ①一人一人の生徒の実態に即して文法、語彙、文字、文章、漢字の書き取りなど、言語に関する事項を整理して指導する。 ②近代以降の様々な文章を読む能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで表現し読書することによって、人生を豊かにする態度を育成する。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その 特質を理解し適切に使っている。	「話す・聞く」「書く」「読む」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を 深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉 を効果的に使おうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、定期考査、提出物、小テストなどから、評価します。	以上の観点を踏まえ、定期考査、グループワーク、プレゼンテーションなどから、評価します。	以上の観点を踏まえ、提出物、グループワーク、長期休業課題などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4 ・ 5	理解編 評論のしるべ 比較文化	4 「C 読むこと」	水の東西 (山崎正和)	- 東西の対比関係を用いながら、日本の水文化に見られる特徴について論じる叙述の方法や構成を把握する。 - 自分の考えが的確に伝わるように、根拠や説明の仕方を工夫する。 - 語句を増やし、語彙を豊かにする。 - 効果的な接続の仕方を理解する。 - 情報と情報を対比させながら展開する評論を粘り強く読み、学習課題に沿って論理の展開を分析する。	4	授業態度 発問評価 指名音読 話し合い 発表・報告 調査とまとめ ワーク課題の提出 説明文の提出 定期考査 小テスト
	理解編 論理分析 対比	2 「A 話すこと・聞くこと」	「間」の感覚 (高階秀爾)	- 文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、文章の構成や論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 - 論理の展開を粘り強く分析し、表現を工夫して今までの学習を生かして要旨をまとめ、発表する。	2	
	表現編 書いて伝える	2 「B 書くこと」	実用的な手紙文の書き方	- 依頼文と案内文の書き方を実践する。 - 相手に情報を適切に伝える文章の書き方を習得し、実践する。	2	
5 ・ 6	理解編 文学のしるべ	10 「B 書くこと」	羅生門 (芥川龍之介)	- 下人の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取るなどして、自分の意見や考えを論述する。 - 語彙を増やし、修辭を理解する。 - 読書の意義と効用を理解する。 - 文章の構成、論理の展開の仕方などを積極的に捉え、論述の際に生かす。 - 内容の解釈を踏まえ粘り強く下人の行為を評価し、表現の仕方を工夫する。	10	
7	理解編 評論のしるべ 日本文化	6 「B 書くこと」	無彩の色 (港千尋)	- マイナスイメージをプラスに転じる論展開と、論拠の事例を把握する。 - 的確に伝える技術を学び、根拠の示し方や説明の仕方を工夫する。 - 日本文化について述べた文章を読み、調べたことや自分の考えを論述する。 - 漢字を身に付け、語彙を増やす。 - 本文で例示された「茶の湯」と「千利休」について調べたことを進んで報告し、自分の考えを深める。	6	授業態度 発問評価 指名音読 話し合い 発表・報告 調査とまとめ ワーク課題の提出 説明文の提出 定期考査 小テスト
	表現編 話して伝える	4 「A 話すこと・聞くこと」	スピーチで自分を伝える	- 自分の意見を大勢の聞き手にわかりやすく伝えるスピーチの方法を理解する。 - 他人のスピーチを評価する方法を学ぶ。 - 進んで材料を集めたり吟味したりし、今までの学習を生かしてスピーチを行う。	4	
8 ・ 9	理解編 評論のしるべ 科学・技術	4 「A 話すこと・聞くこと」	「文化」としての科学 (池内了)	- 筆者が主張する科学と技術の違いを対比的に整理し、現状における関係を理解する。 - 漢字を身に付け、語彙を増やす。 - 主張と論拠、個別と一般化など、情報同士の関係を理解する。	4	調査とまとめ ワーク課題の提出 説明文の提出 定期考査 小テスト

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
				・文章から主張と論拠を読み取り、表現を工夫して自分の考えをまとめ、発表する。		
10	理解編 文学のしるべ	7 「B 書くこと」	鑑 (村上春樹)	・人の内面に潜む恐怖とは何かを読み解く。 ・自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を工夫する。 ・語彙を増やし、修辭を理解する。 ・自分の考えを論述するため、文章の構成、論理の展開の仕方を積極的に捉える。 ・読書の意義を理解し、解釈した内容をまとめて積極的に紹介文を書こうとしている。	7	
11	理解編 評論のしるべ 時間と近代	6 「A 話すこと・聞くこと」	不均等な時間 (内山節)	・具体的事例から一般論への展開、対比の構造を手がかりとして、近代化と時間の合理性との関係を理解する。 ・近代における時間について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する。 ・既習の評論と粘り強く読み比べ、積極的に持続可能な社会に関する意見文を書き、発表する。	6	
12	理解編 評論のしるべ 社会・政治	8 「B 書くこと」	フェアな競争 (内田樹)	・筆者が自説を述べるための論の進め方を捉え、「社会的共通資本」と「フェアな競争」との関係を押さえる。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。 ・現代の社会や政治について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・主張と論拠の関係を理解する。	8	授業態度 発問評価 指名音読 話し合い 発表・報告 調査とまとめ ワーク課題の提出 説明文の提出 定期考査 小テスト
1	理解編 論理分析 推論	2 「C 読むこと」	AI は哲学で きるか (森岡正博)	・文章を分析的に読み、仮説を積み上げて結論を導く論理の展開について理解する。 ・帰納法で推論する評論を粘り強く読み、学習課題に沿って論理の展開を分析する。	2	
	理解編 評論のしるべ 情報・メディア	5 「C 読むこと」	現代の「世論 操作」(林 香 里)	・情報操作の具体例を通して筆者が提起する課題を理解し、メディア社会に生きる者として問題意識を持つ。 ・情報やメディアの現状について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する。 ・現代社会の課題を把握し、根拠の示し方を学ぶ。	5	
2	表現編 書いて伝える	4 「A 話すこと・聞くこと」	地域の魅力 を紹介する	・情報を的確に紹介する方法を理解する。 ・教科書の例を参考に、必要な情報や資料を整理し、わかりやすい紹介文を書く。 ・書いた紹介文を進んで批評し合い、批評を踏まえて文章の構成・展開や表現を工夫しようとしている。	4	

計 64 時間 (55 分授業)

※領域ごとの授業数合計

領域ごとの 授業時数合計	A「話すこと・聞くこと」 20 時間	B「書くこと」 33 時間	C「読むこと」 11 時間
-----------------	-----------------------	------------------	------------------

7 課題・提出物等

- ・各教材が終了した時点で、「課題プリント」を課し、必要に応じてノートを提出させる。
- ・週末及び長期休業にワーク課題「基本の現代文 大学入学共通テスト対策 新装二版」を課し、提出状況を評価する。

8 担当者からの一言

- ・国語は、全ての教科の基礎となり、生活の基盤となる力を身につけるものです。自ら学ぶ姿勢をもって授業に参加して下さい。
- ・授業は予習（本文音読・意味調べ・要旨の確認）を前提に進めます。読解力の基礎となる語彙力は、自ら増やす意欲を持ちましょう。
- ・課された課題については、積み重ねれば基礎学力に加えて受験に対応する力も付きます。提出期限厳守で前向きに取り組みましょう。
- ・「現代の国語」では、今後の「論理国語」の学習の基礎を学びます。しっかり身につくまで、繰り返し復習して下さい。理解できないことについては分からないままにせず、積極的に質問しましょう。